



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(財) 対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 21 年 9 月 30 日発行 第 19 号

特集
三つの慰霊祭

- 小桜の塔慰霊祭
- 悪石島海上慰霊祭
- 悪石島慰霊祭



写真：(株)東亜フォトニクス/石塚由紀子

あれから六十五年。

対馬丸の皆様が元気に那覇を出発してから六十五回目の夏がおとずれ、今年も、高校球児たちの若い力が甲子園で躍動しています。日本は今ほとんどに平和な国になりました。

しかし、平和になったから、年月が経ったからといって、皆様の無念、私たちの悲しみは消え去る物ではありません。本土への憧れと多くの期待を抱きながら対馬丸に乗り込み、犠牲になられた皆様の偲び、私たちはここ小桜の塔に参りました。

六十五回忌の慰霊祭を挙行するにあたり、謹んで哀悼の誠をささげます。

皆様のことを直接知る、遺族・生存者も年々少なくなつてまいりましたが、私たちは皆様の死を無駄にせぬために、世界の恒久平和を願い、対馬丸記念館を建てました。その記念館も開館五周年を迎え、子供たちの平和教育に、更に役立ててもらおうべく、このたび館内展示を一部新しくしました。戦争の恐ろしさを実感するとともに、世界平和への誓いと努力を新たにしたいと願っております。

今年はこちら小桜の塔での慰霊祭にあわせ、悪石島沖では、生存者による慰霊の旅が行われています。皆様の魂が永遠に守られるようにと、一対のシーサーが対馬丸の眠る海底へ届けられます。また、今を生きる児童から対馬丸児童へ平和の願いを込めた、子供シーサーと折り鶴も届けられます。生存者

のその思いは必ずや皆様に届く事と信じております。

今も世界各地で、紛争や戦火がたえません。しかし世界平和へのかすかな光も見え始めてきております。これまで大国の責任者が口にするこののなかつた「核廃絶」が大きく叫ばれるようになりました。一朝一夕に実現できる簡単なことではありませんが、私たちは悪石島沖に眠る皆様とともに、「核廃絶」のみでなく、全ての兵器がこの世からなくなっていくよう願うものです。

対馬丸の悲劇を繰り返してはいけない、犠牲者の死を無駄にしてはいけないという、対馬丸遺族の願いを対馬丸記念館という形にしてください。日本政府に深く感謝いたします。

最後になりましたが、対馬丸記念館の運営に大きな力添えを戴いています。那覇市を始め、映画や演劇でそして音楽で事件を伝えて下さる支援者の皆様、悪石島の「対馬丸慰霊碑」を祀っていただいております。悪石島の皆様にも深く感謝申し上げます。

このように多くの人々に支えられた記念館を私たちは「平和の殿堂」として次の世代に引き継いでいく責務があると思えます。

本日ここに犠牲者の霊前、戦争のない世界の到来を願うとともに、御霊の安らかならんことを祈念します。

平成二十一年八月二十二日

財団法人 対馬丸記念会

会長 高良 政勝

今年是对馬丸撃沈から六十五年、対馬丸記念館開館から五年の節目の慰霊祭となりました。また、開館五周年に合わせた記念館の一部新展示も、遺族や篤志家のご寄付で実行できました。さらに、生存者が悪石島を訪問する慰霊の旅も実施できました。

沢山の皆様のご協力で立派な慰霊祭になりました。写真で報告します。



弔辞を捧げる、左から、仲宗根義尚遺族連合会長、與儀弘子那覇市副市長、高良政勝会長



65年前に想いをはせ、心静かに手をあわせる生存者の宮城マリア、平良啓子さん姉妹



池辺晋一朗先生(上)の指揮で、「海のトランペット」を披露した神戸センター合唱団と浦添少年少女合唱団(右)



海上慰霊祭で黙祷を捧げる参加者(琉球新報紙面より)



子シーサを作ってくれた壺屋小の児童たち



慰霊祭の前に、小桜の塔と記念館周辺を清掃する天妃剣道教室(左上)と遺族関係者(上)

対馬丸撃沈から六十五年目のこの日、小桜の塔、沈没箇所の悪石島沖、悪石島慰霊碑の三ヶ所で慰霊祭が行われました。

那覇市波の上にある小桜の塔では、今年も旭が丘公園を蝶が舞う平和な杜にと、首里城下に蝶を飛ばそう会のご協力でオオゴマダラを放蝶し、セレモニーをスタート。対馬丸事件を歌った「海のトランペット」を浦添少年少女合唱団と神戸市役所センター合唱団が厳かに披露した後、しめやかに慰霊祭が執り行われました。

猛暑のなか遺族や関係者四百名が焼香に参列しました。

また、この日にあわせて悪石島入りした、生存者と遺族ならびに支援者六人が、沈没地点の悪石島沖で海上慰霊祭を行いました。

持参したお菓子や玩具、お水などを犠牲者に捧げた後、海の中で犠牲者を守って下さいとの願いを込め、この日のために制作したシーサー一對と壺屋小学校の児童たちが心を込めて作った子シーサー、それに那覇市内の小学校から託された千羽鶴を海底の対馬丸に奉納しました。

その後、悪石島慰霊祭に参加、永年の慰霊に対して、悪石島自治会に感謝状、悪石島小中学校児童に表彰状を贈呈し、島の人々のご厚情に感謝しました。

今年、対馬丸撃沈から65年にあたることから、新聞でも大きく取り上げられました。各社の報道で慰霊祭を振り返ってみました。

面影に心震わせ

対馬丸慰霊祭

平和の誓い新たに

当日生まれの妹涙



対馬丸慰霊祭で焼香する参列者＝22日午後2時38分、那覇市・小坂の塔(下地広也撮影)

犠牲者の涙が染み付いたように、放り投げられたオウゴンが、慰霊祭の周りをいつもまわった。真夏の日に、下那覇市小坂の塔で、参列者たちは涙を流して、平和への誓いを新たにした。(一面)

島島の荒木さん初参列

参列者の目撃、対馬丸撃沈の事実を伝える。荒木さん(約80歳)は、40人以上が犠牲になったと記憶されている。2度目の参列は、平和への誓いを新たにした。(一面)

夫の乗船 昨秋判明

死通知は、沖縄近海で沈没した対馬丸の乗客。荒木さん(約80歳)は、40人以上が犠牲になったと記憶されている。2度目の参列は、平和への誓いを新たにした。(一面)

生存者ら悪石島訪問

生存者ら悪石島訪問。対馬丸撃沈の生存者ら、悪石島を訪れた。対馬丸撃沈の生存者ら、悪石島を訪れた。対馬丸撃沈の生存者ら、悪石島を訪れた。

海へ鎮魂祈る



対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

悲劇の海 安らかに

対馬丸海上慰霊祭



対馬丸海上慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

遺族や「待たせてすまない」生存者ら「待たせてすまない」。対馬丸海上慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

▲琉球新報 8月23日

対馬丸慰霊祭



対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)



対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

鎮魂の祈り海深く



進む高齢化、減る遺族 県民による継承必要

鎮魂の祈り海深く。対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

▲琉球新報 8月26日

無念さ消えず

小坂の塔 遺族ら40人参列。対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

語り継ぐ決意新た



対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

語り継ぐ決意新た。対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

慰霊碑守っていく



対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

慰霊碑守っていく。対馬丸慰霊祭で焼香する上那覇市人(手前右から2人)＝22日、下那覇市小坂の塔(朝日新聞社撮影)

▲琉球新報 8月23日

悪石島訪問では、慰霊企画でいろいろと協力戴きました。小橋川清正氏、重屋小学校、那覇市教育委員会、那覇市内小中学校、普久原恒勇氏、各位に感謝申し上げます。また、悪石島においては、悪石島自治会、悪石島中学校、南海荘(有川誠司氏)各位のご協力無くしては今回の成功はありませんでした。あらためて感謝申し上げます。



▲新しく展示された遺品



▲戦前の玩具はまとめて展示



▲新たに展示した学童疎開資料(安次富長昭氏寄託)



展示が一部新しくなりました

▲遺影を低くして、五十音順にしてわかりやすく掲示しました



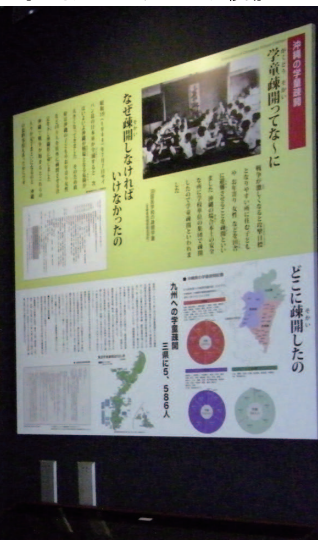
▲子どもたちのメッセージは移動



▲船倉ベッド(蚕棚)は階段下に移動



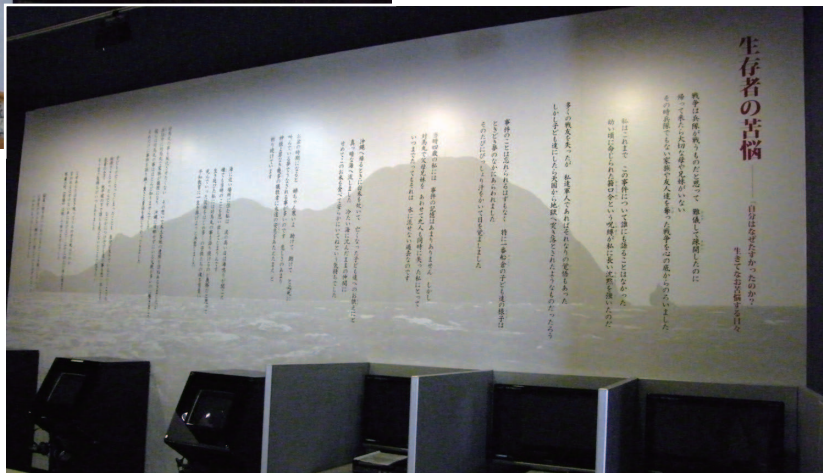
▲学童疎開は児童の視点に立って解説し直しました



▲箱口令の資料は二階に移動



▲十十空襲は京都那覇と、教育環境の破壊をテーマに



▲生存者の証言は、犠牲者の刻名板と向かい合うかたちで展示

今回の一部変更は、遺影を見やすくするとともに、開館時に抜け落ちていた、生存者の苦悩をどう展示に反映させるかが課題でしたが、刻名板と対峙させることでうまく解消されました。

また、学童疎開そのものへの理解が不可欠との想いから、児童の疑問に応えるかたちで学童疎開の展示内容を変えました。

ひめゆり同窓会ならびに、その他篤志家のご寄付で展示を一部新しくすることが出来ました。これまでの遺影の見づらさが改善され、館内の展示も充実しました。

記念館運営日記

視察

□ 4月15日

内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付企画担当 小池裕昭参事官、視察来館。



□ 4月24日

内閣府沖縄振興局参事官（特定事業担当）付川島雅道参事官補佐、視察来館。



□ 6月22日

厚労省社会・援護局援護企画課坂本耕一課長、同援護企画課庶務係片山和弘事務官、視察来館。



□ 6月26日

内閣府沖縄振興局特定事業担当参事官室 矢島謙一郎主査、視察来館。

イベント

□ 4月5日

第12回ちやーがんじゅう講座「水中TVカメラロボット操縦体験とビーチコーミング」が那覇市民ビーチと対馬丸記念館企画展示室で行われました。

これは独立行政法人海洋研究開発機構 国際海洋環境情報セン



ター（GODAC）との共催で、同センターの機材ならびに職員派

遣で実現したものです。当日は事前説明の後、ビーチでTVカメラロボットの操縦体験後、ビーチで拾った貝殻や、ビーチグラスを使って工作を行い、親子で楽しい時間を過ごしました。



対馬丸記念館長賞受賞作品

□ 5月23日

これまで何回もお伝えしてきました、対馬丸事件を題材とした映画「銀の鈴〜対馬丸より、今を生きる君へ〜」が完成し、沖縄試写会が対馬丸記念館で行われました。斎藤勝監督や出演の子役二人が

遺族に完成を報告しました。

□ 8月1日

第2回平和コンサート（主催／いしがき児童合唱団 共催／対馬丸記念館）が企画展示室で催されました。一昨年に引き続き指揮の砂川富貴子先生のもと、『あゝ対馬丸』三部作など、平和の歌声が館内に響き渡り、詰めかけた観客を魅了しました。

席上、同合唱団の児童たちが折鶴で作った、平和パネルを対馬丸記念館に寄贈して戴きました。



寄贈

□ 5月10日

岡山県の山陽女子中学校より、対馬丸で犠牲になった学童数775個の「折バラ」が記念館に贈呈されました。

これは同校の平和学習で対馬丸事件を知り、沖縄修学旅行で記念

館を訪れることになったことから取り組まれ、同校の生徒以外に広く岡山県民にも呼びかけ実現したものです。



□ 7月28日

石堂徳一様

館内の昭和十九年の教室に期限貸与で展示されている、当時の教科書等の資料を、この度正式に記念館に寄贈していただきました。



□ 8月8日

金城明美様

生存者で、語り部の平良啓子さんの教え子、金城明美さんが自身の絵本、「ケイ」「つるちゃん」を一昨年続き寄贈下さいました。



□ 5月16日

我喜屋良守、我喜屋進様

対馬丸犠牲者、我喜屋良圭さんの叔母にあたる、故我喜屋ツル子



さんの香典返しとして、金五万円を頂戴いたしました。

□ 7月8日

嘉手川美智子様

対馬丸犠牲者、嘉手川徹さんのお兄様、故嘉手川達也さんの香典返しとして、奥様から金五万円を頂戴いたしました。

香典返し

□ 5月13日

湧川秀子様

前評議員で開館時のワーキングチームとしても活躍された、故湧川ふき子さんの香典返しとして、お母様から金十万円を頂戴いたしました。



湧川ふき子さんは、長らく東京で活躍され、帰郷後は対馬丸記念館の開館準備にたずさわるなど、いろいろな活動をされてきました。

ご寄付

□ 8月5日

立正佼成会練馬協会様

毎年平和学習で記念館を見学していた



き、寄付金を頂戴しています。今年も金五万円を頂戴いたしました。

□ 8月13日

(財)沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会様

対馬丸記念館の展示一部変更費

用に役立てて下さいと、ひめゆり同窓会(本村つる理事長)より、金百万円のご寄付を頂戴いたしました。



□ 8月30日

琉智(りゅうち)様

ワダツミく対馬丸に寄せてくを歌っていらつしやる、琉智さんから、ご自身が指導する琉智歌謡スタジオの発表会で、今年も金二十万円を頂戴いたしました。



□ 8月22日

兵庫県沖縄友愛運動県民の会様

沖縄美ら島大使もなさつていらつしやる長谷川充弘会長より、慰霊祭会場にて十九万円の寄付を頂戴いたしました。



□ 4月3日〜9月5日

大森節子、那覇高校十二期生有志、石原昌保、田中順一、幸地秀子(琴の音保育園)、外間邦子、平良真八(税理士事務所、儀間真勝、瑞慶山良和、嘉数昇明、土肥義胤、嶋田玲子、友寄賢吉、真栄城修、東風平朝正、比嘉苗子、比嘉スミ、上原妙、沖縄愛楽園自治会、ガジャンピラ会、池原嘉寿子、嶺井憲子、又吉慶子、又吉嘉伸、島尻英子、富原キヨ、慰霊祭ご参列の皆様、荒木ユイ子、北口清子、岩崎富美子、たから齒科、神戸市役所センター合唱団、安次富長昭、田場兼清、名城淑枝、伊禮洋次、部落解放同盟大阪府連合会様。

写真報告以外にも、以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。

トピックス

□ 8月6日

那覇市教育委員会平成二十一年度第四次校長連絡協議会

表記の会合が対馬丸記念会企画展示室を会場に実施されました。

これは、那覇市内小中学校の校長先生に対馬丸記念館を知って戴き、平和学習に利用して貰うことを目的に、那覇市教育委員会のご尽力で開催されたものです。

桃原致上教育長の挨拶の後、高良会長が「対馬丸と私」、元那覇中学校校長で、語り部としても精力的に活躍する友寄賢吉さんが「対馬丸の悲劇と二つの記念館」と題した講和を行いました。



挨拶をされる、桃原教育長(上)と会場を埋めた校長先生方(右)